

※支給対象者、請求方法等の詳細は次号で

の心情を説明して回った。3月21日に審議入りした、質疑採決を経、28日衆会可決可決、参院。31日参厚労安、質疑採決。本会議、緊急、拒可、可決、成立となった。

衆参厚労委員会における主査質疑は以下の通り。

1. 記名国債で発行する理由
2. 事務手続きの簡素化
3. 給付な選択拒を檢討（オンライン申請、現金給付）
4. 国債相対家が申意を表す、べき対象か
5. 受給規定が自治統か
6. 莫大な公費負担に鑑み、国民の理解を得るための特申のあり方の檢討（支給対象、支給方法の檢討の必要性）
7. 記憶の継承の重要性、語り部事業の強化を。

争点は国債を相統したものが申意を表すべきものが問われ、そのため、国債以外の支給方法を検討する、又は国民の理解を得る方策をとったものかというものの。

令和7年度政府予算成立

特帛審議過熱、新たな附帯決議

令和7年度政府予算は3月31日に成立した。先の総選挙を受け、野党多数の状況下、国会運営は見通しが不透明だ。終戦80年の節目に戦没者遺族に特別な帛意を示す特帛支給法は可決されたが、野党から修正案が提出されるなど、審議は伯仲した。国が帛意を表する対象、支給方法、そのあり方を議論された模様を伝えたい。

令和7年度政府予算成立 特弔審議過熱、新たな附帯決議

令和7年4月15日
第892号

一般財団法人日本遺族会
〒100-0074 東京都千代田区
九段南一丁目六番五号
九段会館テラス四階
電話 03-3261-5521
振替 00160-6-25389
編集発行人 盛川英治
毎月1回15日発行
定価 1部130円(税込)

日本遺族会は国の礎となられた英靈顯彰をはじめ、戦没者の遺族の福祉の増進、慰藉救済の道を開くと共に、道義の昂揚、品性の涵養に努め、世界の恒久平和の確立に寄与することを目的とする。

に於り、相續する権利はある。しかし、相續人は特許の支給要件「戦没者との1年以上の生計関係」を持たない、本来受給する対象にない」と附帯決議の「眞に國が弔慰を表す」の特許受給者が國債償還立憲民主黨が提案したたが、2回目の支給が不明に確と、其産党が修正案に反対答弁をし、政府原案は賛成多数で可決された。この他、附帯決議の記憶の継承に触れ、10年間

評価が相次いだ。新たな附帯決議は、先の審議を踏まえた内容となり、遺骨収集事業の推進が加えられた。別掲終戦80年の節目に、本法が成立したことに感謝したい。他方、莫大な金額となる特印に対し、様々な指摘がされたことを受け止め、本会が本法律の趣旨を啓蒙することにも、遺族に課せられた社会的責務として平和の語り部に邁進しなければならぬ。

人事異動

厚生労働省で人事異動が行われた。本会に関係のある方は次のとおり。

今夏參議院選舉推薦候補

令和7年夏の参議院議員選挙における日本遺族政治連盟推薦の3名の候補者を紹介する。

○北海道・第2・4・5

橋本聖子氏略歴



昭和39年10月5日北海道
安平町早生まれ

室長

渡邊 幸信氏
(4月1日付)

支部長交代
奈良県で

奈良県で役員改選が行われ、新会長が就任した。

▼奈良県遺族会

松尾 敏一氏
(4月1日付)

平成16年イラク先遣隊長
平成19年参院選比例初当

選（現3期目）
外務副大臣
○第3ブロック

有村治子氏略歴

昭和45年9月21日石川県

生まれ
平成13年参院選比例初当
選（現4期目）

初代女性活躍担当大臣

書名

3月28日、ミヤ
ンマー(旧ビルマ)
中部マンドレー
付近を震源とす
るマグニチュード

7の大地震が発生した。2021年、軍事クーター以降は訪問きていないが、それ以前は毎訪団が現地での慰霊活動をして友好親善、努めていた。そのミャンマーでの地震による被害状況は、死者は3千人を上回り、けが人や行方不明者が多く、大の救助活動が続けられている。軍事政権下にあるが、民主派の政治家も組織、奉国、救政府（NLD）など、救助活動を実施する。被災地では、月30日から一週間の停戦を履行するを発表し、地支援部隊が被災地へ活動する環境を早急に整える。日、早い復興を願う。ミャンマー国事でも、ミャンマー国事でも、一時的な停戦を求めている。内戦など、国際的な援助は、建設寄附している。このところ、修繕募金と、多々（の）遺族から預かった海賊を助けて、あの快活をもう。子供たちの笑顔をもう見たい。そして何より、追悼を再開するために、局と協議し、早期実現を目指した。

献灯初穂料 ○小型献灯 1灯につき5千円 ○大型献灯 1灯につき2万円

「お申」込み・お問い合わせ 靖國神社事務所 献灯係 〒102-8246 東京都千代田区九段北 3-1-1 電話:03-3261-8326(代表) FAX:03-3261-8320(直通)

第一 定期講話会を開催

体験者と次世代が共に後世へ

平和の語り部事業

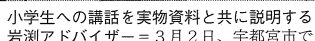
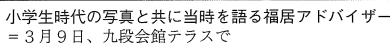
普及、拡大に向け各地で

節目の年に語り部事業の普及・拡大に向け全国各地で行われた取組を紹介したい。

○3月2日（栃木県） 女
本部担当者より終戦80周年語り部事業の具体的な

郷に立った木村好文会長は、戦争によって離れ離れとなった兄に触れ、「戦

康晃アドバイザー（福島県）より、小学校における語り部のポイントを豊



修会における自分史アンケートへの協力への謝意
内容に触れ女性部に求められる語り部を広げよう
○3月6日（新潟県）市
町村地区遺族会長・事務
担当者研修会を開催。本

水落緒矢会長より語り部事業の展望を説明。大石功本都推進委員（静岡県）より、地域から始める語り部事業の具体策を説明。実演が披露された。 （3月7日）（滋賀県）東近江市立能登川中学校に	おいて語り部講話を実施。今堀治夫アドバイザー（滋賀県）は、全校生徒220人を前に、地域の戦争の歴史として戦時の琵琶湖周りに広がる内湖千拓工事に捕虜学生が従事させられたこ
--	---

体験
= 3

とを伝え、今日の平和は
当たり前ではないことを
知に向けた研修会、講話

いづれの研修会も体験者はもとより、戦後生まれの青年部員より語り部活動に参画したいとの声が聞かれた。

会を後押しすべく、本部は語り部推進委員、ブロックアドバイザー、本部隊員を派遣する。相談は本部広報室まで。

し、DNA鑑定の結果、奥出雲町出身の杠源一さんであることが確認された。源一さんは昭和14年

は源一だけだったのでほっとしました。ふるさとで穏やかに眠ってほしいです」と話した。

旧満州で終戦を迎えたが、ソ連の満州侵攻で捕虜となり、シベリアでの抑留生活を余儀なくされ

本会事務局
人事異動

病死している。

3月5日、松江市で遺骨伝達式が行われ、松江市在住の源一さんの甥の

一日付で人事異動を発令した。

▼事務局次長

重井 敦

から遺骨を受け取った。
戦後80年の節目の年に
遺骨が戻って来たことに
ついて良智さんは「お墓
▼総務課長
長秘書(昭和館出向中)
細貝 洋子
土棚江津子

同事業の普及拡大、自治体・学校・報道への周知に向けた研修会、講話会を後押しすべく、本部は語り部推進委員、ブロックアドバイザー、本部職員を派遣する。相談は本部広報室まで。

は源一だけだったの
ほっとしました。ふるさ
とで穏やかに眠ってほし
いです」と話した。

本会事務局
人事異動

一日付で人事異動を発令した。

▼事務局次長 重井 敦

長秘書(昭和館出向中)
細貝 洋子

▼総務課長
土棚江津子

友好業
慰善親

孫世代とともに戦没者を偲ぶ

マーシャル諸島、フィリピンで慰霊

日本遺族会が厚生労働省から補助を受け実施している慰霊友好親善事業で、マーシャル諸島、フィリピン地域を相次いで実施した。全国から戦没者遺児、青年部の付添者を含め総勢37人が参加し、戦没者が辿った所縁の地を巡り、慰霊追悼するとともに小学校を訪問して学用品等を贈呈し、生徒や学校関係者と交流を深めた。

マーシャル諸島は3月1日から9日、フィリピンは3月11日から18日の期間で実施し、各訪問団は初日に東京・九段、それぞれ出発した。



ヤルート方面に向かっての慰霊祭で父に語りかける
= 3月6日、マジジュロで

マーシャル諸島

江田肇本会常務理事(埼玉県遺族連合会会長)を団長とするマーシャル諸島慰霊友好親善訪問団(団員5人、付添者3人)は、3月1日結団式を行い翌2日、成田空港を出発し、経由地のグアム島に到着。3日、チュエク、ポンベ、コスラエを経由し、米国の基地施設となつてのクワジエリン島に歩を印した。

4日午前、クワジエリン島で、同島とワオツゾ島、メリレン島で父を亡くした遺児とともに慰霊祭を行い、それぞれが亡き父へ積年の想いを語りかけた。慰霊祭には米陸軍からアンドリユー・モーガン大佐、アネス・トミナフ曹長、レーネス・エスタブルック司令官代理の3人も参列。ガールスカウト代表としてエミリーさん、ジェノビさんの2人も参列した。

5日、マーシャル諸島の首都マジジュロへ移動し、6日午前、ヤルート方面を向く海岸で、慰霊祭を行い、海原を眺めながら、初めて父の終焉の地近くまで来られた思いを涙ながらに語りかけた。付添で参加した各々3人の孫は、祖父への思いを語る父の姿を目の当たりにし、胸に迫る気持ちに溢れた。祖父への思いを共有する事ができて嬉し



慰霊碑の前に祭壇を設け追悼文を読みあげる
= 3月15日、パレテ峠で

フィリピンで慰霊碑埋設

海外民間建立慰霊碑移設等事業

日本遺族会が厚生労働省から委託を受け実施している海外民間建立慰霊碑移設等事業で、3月13日から19日の期間で、フィリピンのレイテ島、ルソン島で慰霊碑の移設、埋設等について調査した。今回厚生労働省がフィリピン地域で維持管理状況が「不良」と判定している慰霊碑のうち、レイテ島ブラウエンで1基、ダガミで1基を埋設した。いずれも経年劣化により倒壊した慰霊碑で、建立者との連絡は途絶えているため、地権者及び管理者の同意を得て、建立された場所の近くに埋設し、花を供えた。

また、昨年8月の調査で、ブラウエン市の裁

案内表の設置等について検討することとした。

また、昨年8月の調査で、ブラウエン市の裁

案内表の設置等について検討することとした。

案内表の設置等について検討することとした。

案内表の設置等について検討することとした。

案内表の設置等について検討することとした。

案内表の設置等について検討することとした。

案内表の設置等について検討することとした。

判所敷地内にある慰霊碑が放置状態であったため、移設を市の観光課に要請していたが、観光課としては元の場所にとまっていた意向であり、現在は慰霊碑の周りの環境美化整備が進められていることを確認した。同じく昨年の調査で埋設等の対象となつてのルソン島バンガシランの旧比島宇の慰霊碑群については、地権者と協議し敷地内の1か所に埋設し、案内表の設置等について検討することとした。

より相馬弘尚特命全權大使等参列のもと、全戦没者追悼式を厳粛に挙行し、英霊の冥福を祈った。そして、同夜、大使館他来賓を招いて懇談会を開催した。また、訪問団は、マジジュロ市内の小学校を訪問し、持参した学用品や衣類、スポーツ用品等を寄贈して親しく交流し友好を深めた。

フィリピン

盛川英治本会事務局長を総括団長とするフィリピン慰霊友好親善訪問団

(団員26人、付添者3人)は、3月11日、東京・九段会館テラスに集合し結団式を行い、翌日、成田空港を出発。フィリピンのマニラに到着した一行はフィリピン独立の英雄、ホセ・リサールの碑に献花した後、3班に分かれ、それぞれ所縁の地へと向った。A班はルソン島のクラーク観音ワタム、ボソボソ、ハゴイで、B班はルソン北部のピノボツ、キヤンガ、パレテ峠、グナ州カリラヤの「比島」キャビンラン、C班はネグロス島のロザリオハイッ公園、シライイサラビア間、ミンダナオ島タモガン、ミントルでそれぞれ慰霊祭を行い、亡き父達に積年の思いを語りかけ、冥福を祈った。付添で参加した戦没者の孫の一人は「今回の慰霊友好親善訪問をきっかけに、次の世代へ戦争という悲惨な歴史を語り継いでいくことが重要だと感じた」と話した。3月17日、ルソン島ラグナ州カリラヤの「比島」戦没者の碑前で、在フィリピン日本国大使館より花田貴裕公使、青木史子一等書記官の参列のもと、全班が一堂に全戦没者追悼式を厳粛に挙行し、英霊に感謝と哀悼の誠を捧げた。また同日の夜には、現地の政府観光局等の来賓を招待し、合同懇談会を開催した。各班で現地の小学校や孤児院を訪問し、学用品や衣類等を寄贈し、生徒たちや現地の方々と友好を深め、初期の目的を果たした一行は全員無事に帰国した。

ミャンマーで慰霊追悼を

水落会長が外務省へ要望

3月25日、水落敏栄本会会長は、外務省アジア大洋州局の宮本新吾部長に面会し、ミャンマーへの慰霊訪問を要望した。ミャンマーは2021年2月の軍事クーデター以降は政情不安となり、入国が困難なため、「戦没者遺児による慰霊友好親善事業」でも訪問を中止している。水落会長は、本事業が令和7年度で終了することと踏まえ、亡き父の慰霊を願う遺児の思いに理解を示し、在ミャンマー日本国大使館とも協議し、前向きに検討すると述べた。しかし、3月28日に発生したミャンマー中部大地震を受けた情勢は不透明となった。

日本遺族会への

賛助金のお礼

本会の活動に賛同し、賛助金を寄せていただいた左記の方々に、心よりお礼申し上げます。なお、賛同者の都道府県名については、送金方法により居住地が特定できない場合があります。賛助者名(敬称略・カ)
タカナ名は銀行振込、漢字名は現金書留等
川史、桐合、的場武治、岡部博明、津高和子、東川雄一、市瀬八尋、長谷川宇佐美、林康雄、津田廣美、鹿田キヤ子、上村直子、宮下郁朗、志村定男、川又曉子、岡本道子、高桑重道、本チカ子、脇田洋、今西紀子、タゴウカ、イシザキヒロコ以上、3月1日から3月末日まで
皆様からいただいた賛助金は、本会が実施している戦没者の英霊顕彰、戦没者遺族の処遇改善、戦没者遺骨収集事業「平和の語り部」事業の推進等のさまざまな遺族活動に利用させていただきます。

④参加人数により費用が異なる。また、自宅から沖縄の往復交通費、那覇空港から集合場所となる那覇市内のホテルまでの往復交通費は個人負担となるので、各自で手配願いたい。

▼宿泊 パシフィックホテル沖縄（那覇市内）

▼申込先 在任する各都府県連合族事務協会へ。

▼申込締切 5月8日